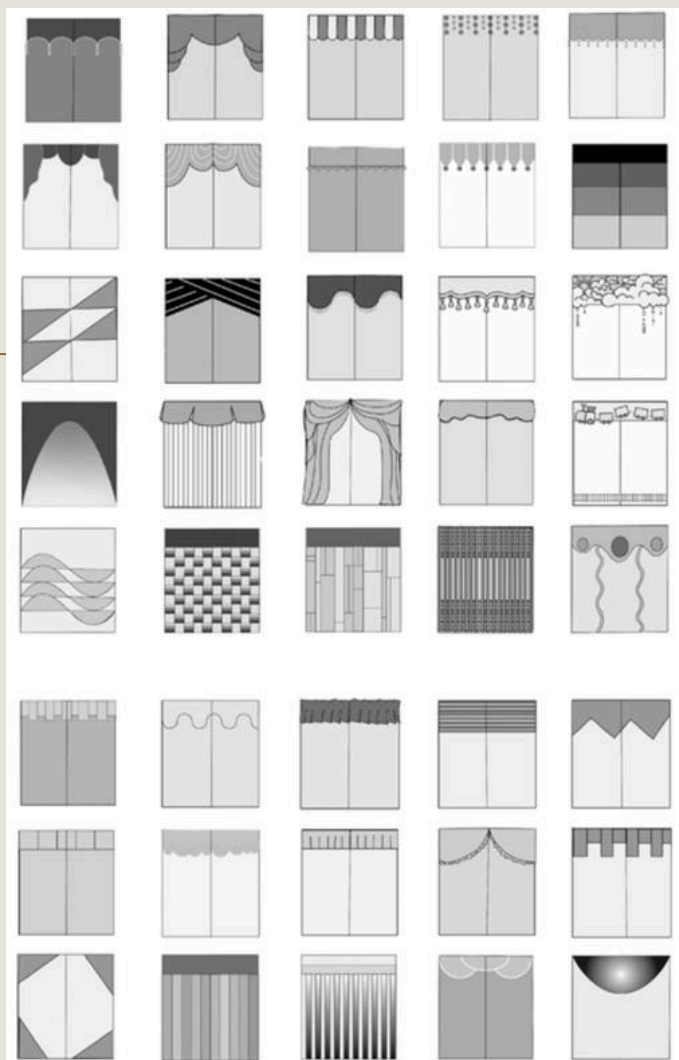


イツデモドコデモカーテン 2.0



公益社団法人インテリア産業協会研究助成報告書
2025-2026

サナミGUMI

目次

02	調査・研究が必要な背景
03	テーマの目的
04	期待される効果
05	調査・研究の実施状況
07	素材選定
09	試作カーテンの取り外し検証
11	使用感調査
13	マニュアル・研究発表

調査・研究が必要な背景



本研究は、日常では空間を彩り、災害時には心身の安心を支える「インテリアのチカラ」に着目し、特に面積が大きく自由度の高いカーテンを防災アイテムとして再定義することを目的とする。

昨年度は、避難所や施設での実態調査、デザイン検討、試作・評価を通して、布素材の柔軟性や心理的な役割が災害時に有効であることを確認した。本年度はその成果をもとに、機能面と感性面の両側面からデザインをさらに深め、実際の活用現場への導入可能性を検証していく。

また、インテリアの役割が「災害時＝無用」と見なされがちな社会認識を問い直し、“日常と非常をつなぐインテリア”という新たな価値を提示することも本研究の重要な目的である。

そのため、昨年度に引き続き公益社団法人インテリア産業協会の研究助成に採択されている。

テーマの目的

(1) 昨年度試作した「防災カーテン」の改良

使いやすさや心理的効果、素材選定を見直し、改良を行う。住宅と複数の学校でヒアリングや使用感調査を実施し、実証的に検証する。住宅は日常の生活空間、学校は避難所となりうる場所であることから、この二つを対象とする。

(2) 大学生によるプロジェクト型学習

大学生がデザイン提案やフィールド実習に取り組み、インテリアの現状や社会的役割を実践的に学ぶ。同時に、同世代や子どもたちが防災やインテリアに関心を持つきっかけをつくる。

(3) 日本インテリア学会での発表

学会発表を通して専門家と意見交換を行い、研究内容を社会に共有する。インテリアや住環境への理解を広げ、今後の研究や生活の質向上につなげる。

(4) 一般向け使用マニュアルの作成

災害時に誰でもすぐ活用できるよう、使用マニュアルを作成する。内容はカーテンのタッセル裏に記載し、紛失を防ぎ、緊急時にもすぐ確認できる仕組みとする。



期待される効果

(1)地域

家庭でのカーテンの多様な使い道を知ることが防災意識の向上につながる。また、具体的な実用例を知ることによって災害時の不安を軽減し、実際に役立つ行動へと結びつけることができる。

(2)行政

防災計画に活用できる可能性があり、避難所の設計や物資備蓄計画に「カーテンの必要性」を位置づけることができる。さらに、報告を通じて地域特性に応じた施策を展開し、地域のニーズに合わせた対策の広がりも期待される。

(3)教育機関

防災教育の教材として活用することができ、「身近ものを使う」という事例を児童・学生に伝えることが可能である。加えて、避難訓練や防災授業において実演を行うことで、体験学習の題材となり、より実践的な学びにつながる。



調査・研究の実施状況

6月・7月	昨年度試作品の課題抽出・文献調査インターネットを用いて 発電布など素材調査 災害時に公共施設と住宅で求められるものの洗い出し
7月・8月	ショールーム見学（株式会社サンゲツ） デザイン検討・試作 昨年度の研究をもとに素材選定・マジックテープの大きさ検討 デザイン案のバリエーション追加
8月	日本インテリア学会第37大会 研究発表梗概集作成
9月	改良カーテン試作品完成
10月	取り外しやすさ検証・研究発表準備
11月	日本インテリア学会第37大会 研究発表 (東京都市大学 世田谷キャンパス)
12月	カーテン設置施設への依頼・カーテンデザイン案の改良
1月	カーテンデザイン案決定・発注 住宅用は大学生ゼミ生徒の部屋、公共施設は大学付属 クリニックの言語 聴覚室に決定(専用のデザイン案検討)
2月	カーテンの設置・使用感調査・使用ガイド作成
3月	成果分析・まとめ

昨年度試作品の課題

・デザイン性

表面から見た際にマジックテープの跡が見え、デザイン性・見栄えに課題

・ユーザー検証

使用感調査を実施しておらず、ユーザー視点の検証不足

・素材検討

体系的な比較・選定がなく、機能性や耐久性の検討不足

求められるカーテン機能

住宅

- ・採光・遮光調整
- ・プライバシー確保
- ・断熱・保温(冷暖房効率向上)
- ・インテリア性(デザイン・色・質感)
- ・洗濯や交換のしやすさ

公共施設

- ・誰にとっても使いやすいデザイン
- ・耐久性,安全性
- ・メンテナンスのしやすさ

住宅での活用例

日常時

- ・模様替え
- ・香り付け
- ・棚・収納などの目隠し
- ・オンライン会議や撮影の背景づくり

災害時

- ・寒さ対策
- ・物や人を運ぶ
- ・固定
- ・集水布
- ・沸らして簡易フィルター
- ・止血
- ・足場の確保
- ・防災頭巾
- ・抱っこ紐
- ・タオル

公共施設での活用

日常時

- ・レクリエーションに使用
- ・インスタレーション
- ・簡易スクリーン
- ・展示物のカバー
- ・空間の仕切り
- ・日差しが強い場所の一時的なカバー

災害時

- ・避難所の仕切り
- ・寝具,敷物
- ・人を運ぶ
- ・結んでロープ
- ・石を包んでハンマー
- ・寒さ対策
- ・収納袋
- ・防災頭巾
- ・簡易テント
- ・集水布
- ・誘導目印
- ・旗
- ・止血
- ・固定

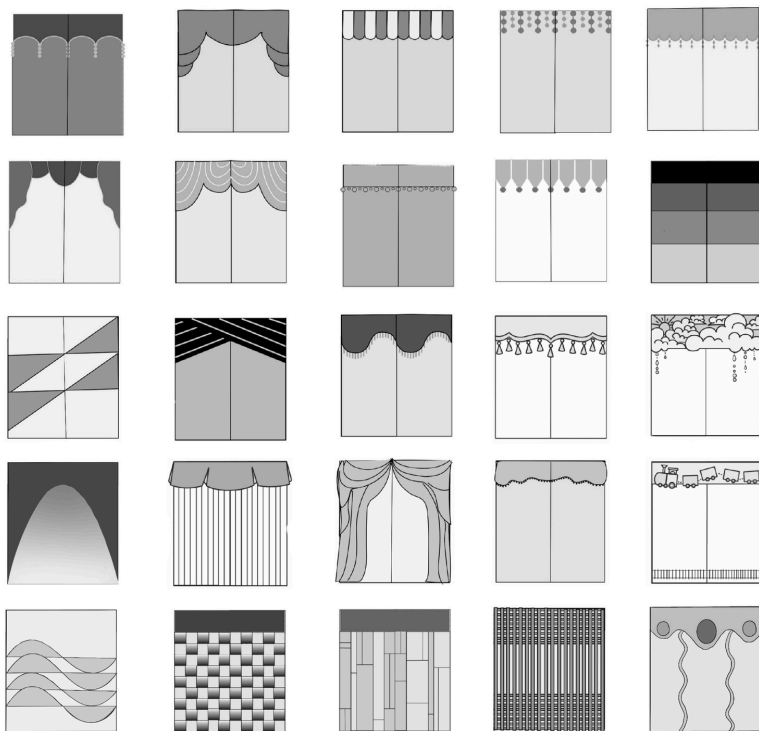
素材選定

化学合成素材	メリット	デメリット
ポリエステル	丈夫 シワになりにくい 速乾性がある	帯電性が高い 蒸れやすい ホコリがたまりやすい
アクリル	柔らかい 薬品・虫に強い 保湿性が高い	毛玉ができやすい 熱に弱い 帯電性が高い
ナイロン	摩擦に強い シワになりにくい カビ・虫に強い	帯電性が高い 黄変しやすい 蒸れやすい
レーヨン	吸湿性・吸水性が高い 光沢感があり品が出る 肌触りが良い	水に弱い 摩擦に弱い

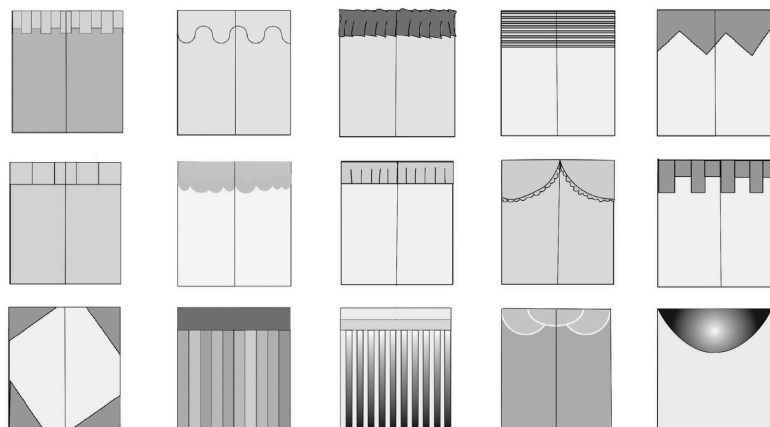
自然素材	メリット	デメリット
綿(コットン)	肌触りが良い 吸水性・吸湿性が高い 低刺激	シワになりやすい 色移りしやすい 黄変しやすい
麻(リネン)	耐水性・耐熱性がある 肌触りが良い 吸水性・通気性が高い	シワになりやすい 伸び縮みしやすい
絹(シルク)	肌触りが良い 光沢感がある シワになりにくい	黄ばみやすい 虫・カビに弱い 摩擦。日に弱い

デザイン案検討 麻はデザイン性に欠けるため肌に触れる下部のみに使用上部に化学合成素材を使用しデザイン性を確保した。

住宅



公共施設

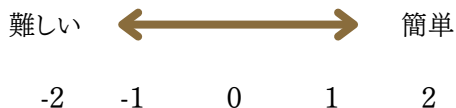


試作カーテンの取り外し検証

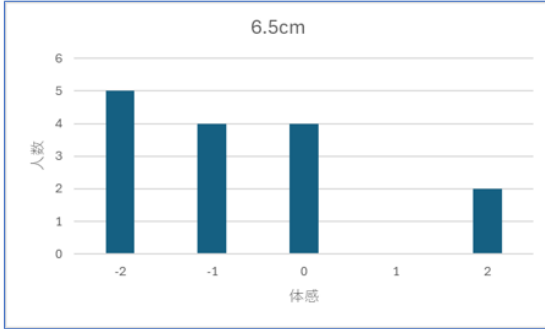
カーテンの上部と下部をつなぐマジックテープの長さを変え、取り外すまでの秒数と取り外しやすさの体感(5段階)の二項目で検証した。

条件

- 利き手のみを使うこと
- カーテンを自然な力で外すこと
- 持ち手の位置は地面から120cm



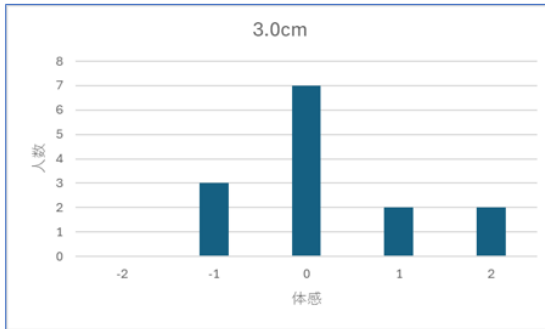
マジックテープ6.0cm



	秒数	体感
Aさん	8.03	-2
Bさん	1.08	-2
Cさん	2.55	-2
Dさん	2.98	0
Eさん	2.51	0
Fさん	3.83	-2
Gさん	3.03	-1
Hさん	2.21	-2
Iさん	0.90	-1

	秒数	体感
Aさん	1.15	2
Bさん	1.68	-1
Cさん	0.63	0
Dさん	0.76	0
Eさん	0.45	2
Fさん	3.42	-1

マジックテープ3.0cm



	秒数	体感
Aさん	2.90	1
Bさん	2.80	-1
Cさん	1.65	-1
Dさん	2.30	2
Eさん	2.08	1
Fさん	3.27	0
Gさん	2.20	0
Hさん	2.40	0
Iさん	1.76	0

	秒数	体感
Aさん	2.08	-1
Bさん	4.04	1
Cさん	1.61	0
Dさん	0.7	0
Eさん	0.63	2
Fさん	4.1	0

- 6.5cmのカーテンの方が取り外しにくかったと答える人が多かった。
- どちらも取り外しやすさに大差はないと答える人もいた。
- 3.0cmのカーテンでは、難しいと答える人はいなかった。
- 男性は難しいと答える人はいなかった。

結果

3.0cmのマジックテープが適している



検証を元にカーテンの改良を行い、実際に設置する住宅・公共施設それぞれの空間用に最終デザイン案を決定した。

使用感調査

実験場所（住宅）

弥富市 学生自宅

学生が模型材料や模型を保管する部屋

珪藻土の白壁に囲まれた部屋に元は落ち着いた色のカーテンであったため、華やかさを出しつつ、白壁にも溶け込むようなデザインが求められる。

試作カーテンの特徴

- 上部には住居者の好みを取り入れた花柄の素材を選定
- ポンポンを取りつけ、明るく華やかな印象に
- 災害時だけでなく、普段の生活での見た目の美しさや空間への華やかさを重視

使用感

• 開閉のしやすさと遮光性

上部にポンポンがついていたり、生地が厚いので開閉する際重さを感じるが、その分遮光性は良い。

• 遮熱効果

カーテンの縁を壁に接着していることもあり、他の部屋に比べ窓との隙間風が入りにくく、冬の冷気を妨げている。

• 素材感

柔らかい素材なので、肌触りが良く心地良い。一方、シワになりやすく、元々の折り目でドレープがあまり綺麗に出ない。

• 空間への影響

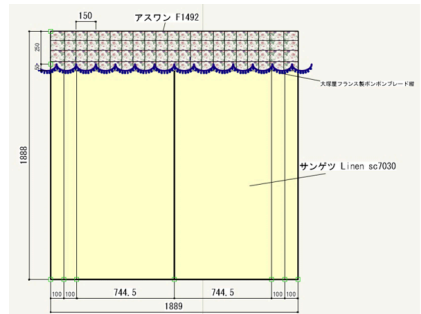
明るい印象のデザインであるため部屋が明るく、広く感じられる。白壁と相性も良く、華やかではありつつとても部屋に溶け込んでいる。

• 下部カーテンの取り外しやすさ

マジックテープが上部のカーテンのかなり上の位置に設置されており、カーテンの中央の高さの位置をつかむと力がかわりづらい。

使い始めはマジックテープがかなり固く上部のカーテンが破れてしそうで片手で引っ張って下部カーテンを取り外すことは難しい。

→実験で用いたマジックテープは繰り返し実験を行ううちに柔らかくなり取りはずしやすかったのではないかな。



実験場所（公共施設）

愛知淑徳大学クリニック リハビリテーション 言語聴覚療法
愛知県長久手市片平2丁目1401

耳鼻咽喉科医と言語聴覚士が連携し、幅広い世代のコミュニケーション支援を行う施設。主に子どもが利用し、親が見守るマジックミラーに設置されるため、目立ちにくいデザインが求められる。

試作カーテンの特徴

- 目に優しく壁面の色に寄せた色味
- シンプルなデザイン
- 上部をなだらかにすることで優しい印象に

使用感

• 開閉のしやすさ

開閉時に重さは感じないが、ドレープがきれいにでていないため閉じる際は折りたたみながらまとめる必要がある。

• 素材感

光沢のある素材なので上品さを保ちつつ、空間を明るく感じさせる。

防炎加工の問題で下部のカーテンも化学合成素材を用いているため、肌触りの心地良さは欠ける。

• 空間への影響

落ち着いた印象のデザインであるため白壁と相性も良く、アクセントを加えつつも部屋に溶け込んでいる。

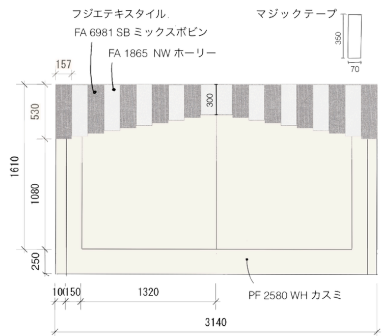
• 下部カーテンの取りはずしやすさ

住宅と同様、使い始めはマジックテープの強度が高く、片手で取り外しにくい。

しかし、子どもがカーテンに巻き付いて遊ぶことがあるため、ある程度の強度が求められる。

• 課題

用意したカーテンのフックと設置されているレールの数に差異があった。そのためドレープが綺麗にでていない。タッセルを磁石を用いて作成していたが、施設側の意見として外れやすさの観点からも違うものを用意する必要がある。カーテン素材としては麻を推奨していたが、消防法に基づき防炎カーテンの設置が義務付けられていたため、化学合成素材を使用することになってしまった。



マニュアル



担架 寝具 仕切り 簡易テント ロープ ハンマー 風呂敷 止血



固定 防災頭巾 誘導サイン 防寒 抱っこ紐 フィルター 旗

住宅施設

- ・寒さ対策
- ・物や人を運ぶ
- ・固定
- ・集水布
- ・沸らして簡易フィルター

- ・止血
- ・足場の確保
- ・防災頭巾
- ・抱っこ紐
- ・タオル

公共施設

- ・避難所の仕切り
- ・寝具、敷物
- ・人を運ぶ
- ・結んでロープ
- ・石を包んでハンマー
- ・寒さ対策
- ・収納袋

- ・防災頭巾
- ・簡易テント
- ・集水布
- ・誘導目印
- ・旗
- ・止血
- ・固定

マニュアルをプリントした布をタッセルに差し込むことで、紛失の恐れがなく、緊急時に容易に確認することができる。



研究発表

2025年11月9日

日本インテリア学会第37回大会「インテリアデザインの最前線 ～東京で交差する知のシナジー～」に提出した研究発表梗概集

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

イデガモトダテカサテン 2.0

表1 イデガモトダテカサテンのデータ一覧

項目	内容
製品名	イデガモトダテカサテン
規格	JIS S 5035
材質	ポリエステル
色	白
寸法	縦1000mm 横1000mm
重量	約100g
価格	約1000円

表2 公共施設のタッセルの仕様

項目	内容
製品名	公共施設のタッセル
規格	JIS S 5035
材質	ポリエステル
色	白
寸法	縦1000mm 横1000mm
重量	約100g
価格	約1000円

表3 住宅のタッセルの仕様

項目	内容
製品名	住宅のタッセル
規格	JIS S 5035
材質	ポリエステル
色	青
寸法	縦1000mm 横1000mm
重量	約100g
価格	約1000円

表4 公共施設のタッセルの仕様

項目	内容
製品名	公共施設のタッセル
規格	JIS S 5035
材質	ポリエステル
色	白
寸法	縦1000mm 横1000mm
重量	約100g
価格	約1000円

表5 住宅のタッセルの仕様

項目	内容
製品名	住宅のタッセル
規格	JIS S 5035
材質	ポリエステル
色	青
寸法	縦1000mm 横1000mm
重量	約100g
価格	約1000円

表6 公共施設のタッセルの仕様

項目	内容
製品名	公共施設のタッセル
規格	JIS S 5035
材質	ポリエステル
色	白
寸法	縦1000mm 横1000mm
重量	約100g
価格	約1000円

表7 住宅のタッセルの仕様

項目	内容
製品名	住宅のタッセル
規格	JIS S 5035
材質	ポリエステル
色	青
寸法	縦1000mm 横1000mm
重量	約100g
価格	約1000円

表8 公共施設のタッセルの仕様

項目	内容
製品名	公共施設のタッセル
規格	JIS S 5035
材質	ポリエステル
色	白
寸法	縦1000mm 横1000mm
重量	約100g
価格	約1000円

研究発表

2025年11月9日

日本インテリア学会第37回大会「インテリアデザインの最前線 ～東京で交差する知のシナジー～」で研究発表を行った。



2026年2月11日

指導教員が登壇した「地方の取り組みとインテリアの未来」トークショーにおいて、学生発表の機会をいただき、研究発表を行った。



フィードバックと対応

① 素材・デザイン

日本人は不揃いなドレープや、床に垂れるデザインを好まない可能性がある。麻は世界的に注目されているが、日本の生活空間に受け入れられるのか。

↓
麻は耐久性や通気性など機能面で優れているため採用。今後は使用感調査を行い、日本の生活空間に合う素材感やデザインを検討する。

② 持ち運びやすさ

下部パーツは持ち運びにくいのではないかと。

↓
マジックテープの数を増やす、下部を細かく分割するなど持ち運びやすい構造を検討する。

③ 上下の構造

上部と下部で分かれている必要はあるのか。上部が残らなくてもよいのではないかと。

↓
カーテンフックは外しにくく、無理に外すとフックごと外れて危険な可能性があるため、上部は残す構造とした。また、下部には麻素材を採用しているが、麻はデザインの種類に限られる。そのため、上部のみ素材を変えることでデザイン性を持たせている。



メンバー

堀口美桜	愛知淑徳大学生	佐藤史織	同上
水谷夕夏	同上	柴田菜々美	同上
内藤理彩	同上	石埜美妃	同上
中西翔琉	同上	秋山英実花	同上
佐野暖真	同上	堀裕太	同上
辻咲帆	同上	三浦陽光	同上

(上記学生指導・監督)

松本佳津 愛知淑徳大学教授 インテリアコーディネーター